

## 森林環境イベント 第6回

### 「東御の森」(奈良原市有林)で、 森の自然を感じよう

日時: 5月19日(土) 午前10時~正午 (予定)  
(受付開始 午前9時30分)

定員: 10名

場所: 「東御の森」

集合場所: 中部電力塩沢第二発電所前広場

(県道94号線沿い 湯の丸高原の看板が目印)

内容: ◇樹木の観察

◇野鳥の観察

講師: <sup>あべ</sup>安部 <sup>たくや</sup>拓也 (動物相調査員)

<sup>かまい</sup>釜井 <sup>かつひろ</sup>勝浩 (植物相調査員)

※両調査員は「東御の森」の自然環境調査を行なっています。

参加費: 無料

申し込み・問い合わせ 農林課耕地林務係 (市川)

☎ 64-5898

5月16日(水)までに、上記へ電話でお申込みください。

雨天時は、中央公民館学習室で、「東御の森」に遊びにくる野鳥たちや、

鳥の鳴き声のいろいろ、自然環境調査 などの話を聞きます。

主催:(公財)Save Earth Foundation (SEF)

協力:東御市 (公財)身体教育医学研究所

「東御の森」は、湯の丸高原の麓(高度約1,000m)に位置する市有林。

広さはおよそ10ha、中央に所沢川が流れる溪畔林です。

カラマツをはじめとする森の樹木が、

降った雨を土壤に浸透させてゆっくりと流す「水源かん養」や

土砂の流出を防ぐ機能を果たしています。

かつては、近隣の人達が薪をとったり炭焼きをしたり、山菜とりなどに

この森を使っていました。現在は、いろいろな植物や動物などが、ひっそりと生活しています。そしてこの生きもの達が、森をまもるために重要な役割をもっています。

「東御の森」を歩きながら、樹木や草花、野鳥を観察しませんか?

森の自然環境や生きものたちの命のつながり、

森林の果たしている役割について、一緒に考えてみませんか?



このイベントは国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」の交付金による助成事業です。

## 講師からのお誘い

「東御の森」の自然環境調査をしています。森の中では四季折々に、いろいろな生きものが観察できます。

樹木・草本・野鳥・昆虫・川の中の水生生物・土の中の土壌生物などなど。それぞれの生きものが関わりあって暮らしていることを感じています。

鳥の調査が専門なので、鳥にまつわる話をしたいと思います。

(株) Biotop Guild 安部 拓也 (動物相調査員)

「東御の森」の自然環境調査をしています。

所沢川に沿った観察路では、カラムツの他にオニグルミ・サンショウ・ウワミスザクラなどの樹木がみられます。

5月は山野草も咲きはじめます。草花について話しながら、一緒に森を歩きましょう。

(株) Biotop Guild 釜井 勝浩 (植物相調査員)



「東御の森」は、水源かん養・土砂災害防止の役割を果たしています

森は自然の「緑のダム」。降った雨はゆっくりと森の土にしみこみ、地下に蓄えられ、少しずつ川に流れていきます。大雨でも川があふれないよう、日照りが続いても川の水がなくなるようなよう調整しているのが水源かん養機能です。また、森の樹木や草は、降雨などによる土壌の浸食や流出を防ぎます。このような自然の機能を果たすために、森林生態系を豊かにすること、生物多様性を守ることが大切です。

上小地域の県営林、市町村林、財産区有林が連携し、SGEC 森林認証を取得し、森林生態系に配慮した持続可能な森林経営をめざしています。「東御の森」も、その一部です。

※SGEC 森林認証については、東御市ホームページをご覧ください。

(公財) Save Earth Foundation (SEF) の森林再生事業について

東御市との保全協定に基づき、「東御の森」(奈良原市有林)の再生保全活動を実施しています。

現在は、保全に向けての自然環境調査と、在来種保全のためにオオハンゴンソウ(特定外来植物)の

抜取り作業に取り組んでいます。



SEFの森林再生事業は「国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)」が推薦する事業として認定を受けています。